

別紙概要書

富山県生物学会では、学会の会員2名と一般2名が参加して、平成28年7月23日に有峰観察会を実施した。生物学会の会員が有峰の豊かな生物相を継続調査することにより、理解を深める機会と位置づけている。

午前中は西谷ブナ林で、構成樹木の胸高周囲の測定と昨年落下したブナ果実から発生した実生の密度を観察した。胸高周囲を測定した樹種はブナなど12種、30個体である。来年度以降、継続して胸高周囲を測定し、それぞれの樹種ごとの成長量を観察したい。ブナの実生の発生数は1㎡の小方形区を8個設け、密度を観察した。その結果、今年発生した実生密度は平均1.6個/㎡であった。3年以上前の実生密度は平均4.6個/㎡であった。

午後は西谷（水温13.9℃）で、ハコネサンショウウオの幼生2匹、大多和峠近くの沢（水温10.2℃）でハクバサンショウウオ（多数）、宝来島の横（水温23.5℃）でウグイ2匹、イワナ1匹、旧有峰ハウスの裏の池（水温22.7℃）でクロサンショウウオ（幼生7）、ハコネサンショウウオ（幼生1）をそれぞれ観察した。その他、林道沿いではタゴガエルとアズマヒキガエルの幼体を観察した。

日程 平成28年7月23日(日)

- 9 : 20 アルペン村出発 自家用車2台で出発
- 10 : 10 西谷ブナ林でブナ実生の調査
- 12 : 10 西谷の橋詰で昼食
- 13 : 00 西谷、大多和峠で両生類を観察
- 14 : 00 宝来島横で魚類の観察
- 14 : 30 旧有峰ハウスの裏の池でサンショウウオを観察
- 16 : 00 アルペン村で解散

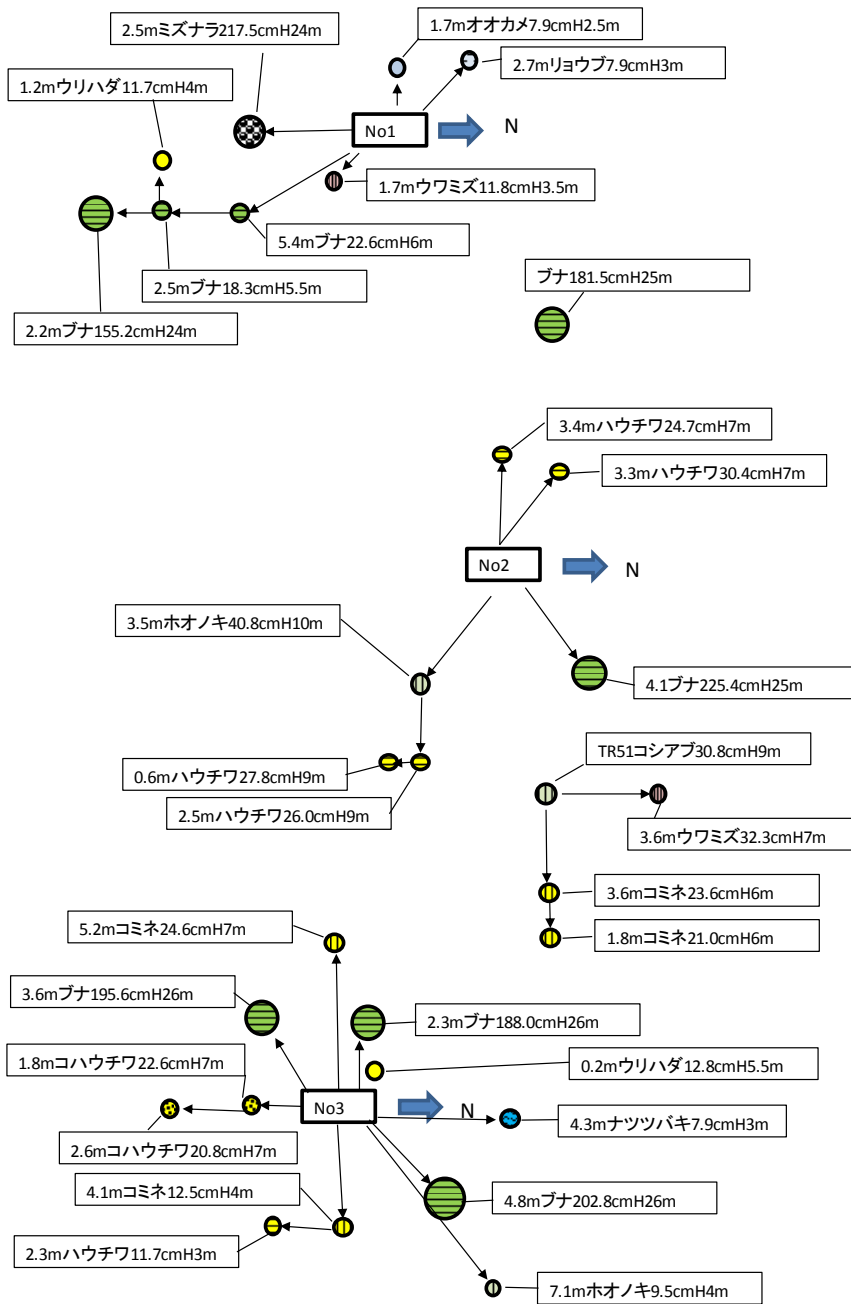


ハウス別館裏の池



ハコネサンショウウオの幼生

平成 28 年 7 月 23 日 西谷ブナ林の調査結果
 (位置 + 種名 + 胸高周囲 + 樹高)



西谷ブナ林のブナ実生